

### ③石部スタイルの導入

全教科で実践される石部スタイルの取組を、道徳の時間は特に意識して実践しようと呼びかけた。

机間指導の時に教師が座席表を持ち、児童の思いを価値への高まりを意識しながら分類、把握するよう努めた。

取組を重ねていくことで、授業中児童の発言を交流する活動の際、児童の思いが次第に高まるよう意図的指名をするのに役立った。



机間指導はボードを持って

### ④総合単元的な構想図

各学年で児童の実態に合わせて決めた『重点目標』にそって、できるだけシンプルに約2～3ヶ月の期間を見通して作成していくよう構成してきた。『めざす子どもたちの意識の流れ』を吹き出しで加えることでより具体的で使いやすいものを提案し、定着してきた。

## 2. 言語感覚を磨く取組

### ①詩の暗唱

昨年に引き続き、暗唱課題の掲示や、学年によりチャレンジする曜日を設定するなどの取組に対して円滑に行えると思われる取組については残しつつ、新たな取組も取り入れていった。

今年度の校長の暗唱課題には、東日本大震災につながるテーマの物も多く、やや難易度の高い内容のものも多かったため、低学年などでは、合格の達成感を味わうという目的に焦点を当て、親しみやすい教材を課題に設定し挑戦した。

また、暗唱できているかという点だけでなく、発音や発声にも注目し、朝の発声タイムを設定し、発声方法を学び、練習を繰り返してきた。

その結果、ふだんの生活でも聞き取りやすい発音や、正しい発声で発表できる児童が増えたように思う。



朝の発声タイム

### ②ことばの広場

5・7・5、詩、作文、感想文、ふわふわ言葉など、さまざまな言語に関する作品づくりに積極的に挑戦し、言語感覚を高めようという取組はかなり定着してきた。

そのひとつとしての、学級からの代表作品が毎月数点掲示される『ことばの広場』では、掲示される作品も、工夫の凝らされた物があり、子どもたちも作品作りに慣れ親しみ、楽しんでいる様子が見える。



楽しい作品がズラリ